

Title	序文
Sub Title	
Author	橋本, 孝 (Hashimoto, Takashi)
Publisher	三田哲學會
Publication year	1968
Jtitle	哲學 No.53 (1968. 9) ,p.i- ii
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	守屋謙二先生古稀記念論文集
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00150430-00000053-0001

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

序 文

守屋謙二教授は、大正14年本塾の教職に就き、爾来今日に至るまで四十余年の永きにわたり、美術史の研究と教育に専念し、その門下より幾多の人材を輩出せしめたことは周知の通りである。

守屋教授は、本塾文学部に初めて美学美術史学の学科を創設した、故澤木四方吉教授の伝統をつぎ、ヴェルフリンの形式主義的方法を土台として、これに深い体験と思索に基づく反省を加えて、独自の研究方法を開拓した。

豊かな芸術家の直観力と鋭い哲学者の洞察力とを以て、東西美術の比較研究するが如きは、余人の到底企て及ばぬ独壇場と云ってよかろう。これは、教授が豊富な学殖と体験に加えて非凡なる芸術的才能を兼備せる証左であって、自らものする書画の如きも、個性の強い一種独特の風格のあるもので、すでに逸品の定評すらある。

守屋教授は、みずから洗竹居主人と号して風流の生活を楽しみつつ、東西両洋の古典美術の真随を追求すること久しきに及び、いわゆる比較芸術学のジャンルを切り拓くことを念願とし、

その間に発表せる諸研究は、わが美術史学界に大いなる寄与をなした。殊に晩年の教授は、不幸病魔におかされ、永い闘病生活にも拘らず、ひたすら研究と教育に沈潜し、その不屈不撓の探究心に対しては、驚嘆の念を禁じ得ないものがある。

かかる教授が、今回古稀を迎えるに際し、本学会は、同教授の多年に亘る学勲に敬意を表すると共に、いよいよ寿康の盛んならんことを祈念し、ここに第五十三集全誌を挙げて、特に守屋教授古稀祝賀記念論文集を刊するに至った次第である。

1968年7月

橋 本 孝